

## 幼児の歌唱指導について

幼い子どもが、音程正しく歌うことができない原因として大きく2点に分析できる。

① 子ども自身、発声の仕方がわからない

② 音を聴く集中力が欠けている

きれいな歌声 = ①音の認識 ②発声（音程） ③口型 ④リズム感 +

指導者の感性

怒鳴らないできれいな声で歌うには・・・

年少 怒鳴る傾向がある⇒注意ばかりすると歌う意欲が削られる。

3～4歳 発声以前の問題として音楽を嫌いにさせないこと。

根気よく、教師が正しい発声で何度も何度も自然に歌う。

無理にファルセット（裏声）を使わないで子供らしい声で

正しい音程で歌わせるには・・・

・子どもの声域内で歌う。または、移調して歌う。

・歌いたいと意欲を増すためには、時には広い音域の曲を与えることも必要。

※音域を広げるためには役立つが、音程の乱れに注意しないとテーマから外れる。

・音程のとれない子供への配慮 ⇒

よく音程が取れる子どもの近くやピアノの近くに配置

・間違っている場合 教師⇒「正」「誤」の歌い分けをして正しい音程で

生まれつきの音痴はいない！ ⇒ 音程が外れていてもすぐに否定しないで例えば

「とても にこにこして歌っているね」など良いところを見つけてあげよう。

## ① 音の認識

子どもたちは、音に対して敏感で大人が考えているよりはるかに柔軟に音や音楽を受け入れることができる。それは、音楽が日常生活にあふれ子どもたちにとって身近な存在であるからであろう。

しかし、年齢が小さい時ほど音（高低の認識・理解）に対し、楽しみながら正しく受け入れるために何らかの手立てが必要になってくる。例えば、お面をつけてある人物や動物になりきり、音をとらえることができるリトミック的な活動が、あげられる。身体を使った階名あそび等であそぼう。

## ② リズム感

音の認識同様、リズムは子どもたちにとって音楽に楽しさをプラスし、一段と興味を高める要素となる。

特に、低年齢児には、リズム（長短）を身体で表現し、遊びの中で体得できるリトミック的な活動が効果的である。

## ③ 発声

正しい発声には、よりよい聴力・または音を聴こうという意識とそれに伴う集中力が必要となってくる。






さらに重要になるのが、発声する音には、「弱」・「中弱」・「中」・「強」の強さがあることを理解し、それに従いながら発声することにより、より正しい音程での発声が可能となる。音の強弱の基本は以下のとおりである。

低い ← シ ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ → 高い  
弱 弱 弱 中弱 中 中 中 中強 強 強強



#### ④ 口型

音程が正しくとれていても、子どもの場合、口型が崩れていると音程がはずれてしまう。

そこでポイントになるのが、母音の口型である。これは、歌う時の大きな基礎といえる。

(ア イ ウ エ オ) → (      )  
ア イ ウ エ オ

#### 練習例

おとうさんの  オ おかあさんの  オ  
強 強

#### ①～④の項目の要点を理解し、指導するために

##### 心構え

- ・短時間であっても、毎日の活動の中で必ず歌唱指導に取り組む。
- ・指導者が、音（音楽）に対し敏感に反応できることが必要である。
- ・指導者はもちろん、子どもたちにも幅広いジャンルの音楽を用意する環境作りに心がける。

## 毎日の発声練習

### 〈音階練習〉

八長調の音階をピアノの音をよく聴き、強弱・口型に気をつけて歌う。

#### ステップ1

1音ずつピアノの音をよく聴き、歌う。

※発声させる際は、テンポが大切である。

ド（ピアノ）→ さあ、うたおう（先生）→ ド（子供発声）

レ（ピアノ）→ さあ、うたおう（先生）→ レ（子供発声）

ミ（ピアノ）→ 声を出して（先生）→ ミ（子供発声）

ファ（ピアノ）→ 口をあけて（先生）→ ファ（子供発声）

	発声合図の言葉	発声のポイント・仕方
ド・レ	さあ、うたおう	長くうたう
ミ	声を出して	少し短く
ファ	口をあけて	口をあけるように促し、短く
ソ	声を出して	口をすぼめ、短く
ラ	口をあけて、声を出そう	口をあけるように促し、短く
シ	強くうたおう	短く強く
高いド	もっと、強く	一番強く

#### ステップ2

指導者が、八長調の音階に伴奏を入れながら、素早い言葉がけ

（左は和音・アルペジオ、右は単音）

## ステップ3

指導者は、子どもの歌声が正しい音程になったら、右手の単音（ド～高いド）を無くし、すべて伴奏に切り替え、正しい音程でより一層、きれいな歌声を引き出す。

### 〈二度・三度音程〉

二度三度音程を聴き取りながら歌う練習

二度音程

ドレド（ピアノ）→ さあ、うたおう（先生）→

オオオ or オエオ（母音で子供発声）

レミレ（ピアノ）→ エイエ . . . . .

三度音程

ドミレ（ピアノ）→ さあ、うたおう（先生）→

アアア or オイエ（母音で子供発声）

### 〈一人一人の音程を知る（矯正をしながら）〉

音階練習、二度三度音程の練習と同時に、個別指導が必要になってくる。

一人一人がどの音が正しくないのか？指導者は把握しよう。

その時点で、矯正を施し、正しい音程で歌えるよう根気強く指導する。

方法 ⇒ 音階練習・ステップ1で確認する。

同じレベルの子どもたちを集め、グループ指導を行う。

これらの事を毎日少しずつ取り入れていこう。

## 〈歌を歌う〉

母音・口型に気をつけて、無伴奏で主旋律を単音で歌わせる。

正しい音程で歌えるようになったら、伴奏をつけ、リズムに気を付けながら楽しく歌わせる。

幼児の声域は、1 オクターブ内 声帯の長さは、1 cm

3歳 ミ～ラ 4歳 レ～ラ 5歳 レ～シ 6歳 レ～ド

## 日常の中での歌唱指導における注意点

- ・子どもたちをだらだらさせず、よそ見をなくし集中した状態でピアノの音をよく聴かせ正しい姿勢と心構えで歌わせる。
- ・音がはずれたときは、単音矯正や模範唱をよく聴かせ矯正する。
- ・季節の歌を歌う時も、口型に留意し、はっきりと声を出させる。

(メロディーを無くし、歌詞のみで発声させる。素早く口型をつくることや口型

そのものの矯正をする)

- ・母音を意識し、大切に歌わせる。
- ・指導者自身の正しい音程・歌声を聞き分ける耳を養うことも大切である。

## 新しい歌の導入について

① フレーズごとの復唱 ⇒

子どもの反応（興味を冷ます場合が多い）⇒

（曲全体の流れがつかめないため）

② 指導者が繰り返し根気良く歌う ⇒ その中で一緒に参加させていく

③ 最初は、その歌の持つ速さや気分を活かして歌う。

④ 子どもは、体を動かすことが好き ⇒

そのことを考え、振り付けを入れる ⇒

楽しさが増し、比較的よく覚える

⑤ 歌を物語風にお話風に話してあげて歌に入る ⇒ 歌に対する興味 ⇒

歌詞の理解を深める。

**季節に応じた歌 ⇒ 歌の雰囲気がかみやすい**

**情景を体験できる**

**感性が育つ**

**歌の情景を見せる・出てくる動物を見せる・体験させる ⇒ 効果大**

**月に1回 全園児（年少・年中・年長）合同で歌う ⇒**

**年長児を見習う傾向にある**

例

「アイアイ」など歌詞が追いかける曲は、年長児が先に歌うと良い

合同の場合は、簡単な歌に偏る傾向があるので、声域やリズム感を

養わせるために導入してもよい。

## 伴奏楽器について

**ピアノ** → 配置する位置に注意しましょう。

子どもたちとコミュニケーションがとりやすい位置に

**キーボード** → 子どもを見渡せるところに移動が可能

いろいろな音が出るので雰囲気を高めることができる。

移調が楽にできる。

## 発表の機会を増やそう

励み ・ 自信

保護者とのコミュニケーション

年齢別や合同

※歌に参加しない子供に対して ⇒

無理に参加させない・参加してくることを待つ

他の事をやっているように見えても案外、手拍子をして音楽に参加している

場合が多い

## 指導者

一人より二人が望ましい

教師一人一人が、温かい励ましや良い発声、きれいな声で表情

豊かに歌ってあげることが重要「学ぶは、真似る」から始まる。